

## 鉄鋼

**7,155億円** (前期比 +15.3%)



自動車用弁ばね用鋼

- **鋼材販売数量**：輸出減少も、国内の自動車向け需要の堅調な推移などにより、前期並
- **鋼材販売価格**：主原料価格の上昇などの影響を受け、前期を上回る
- **鋳鍛鋼品売上高**：船舶向け需要の減少により、前期比減
- **チタン製品売上高**：航空機・一般産業向け販売の増加などにより、前期比増
- **経常損益**：前期に計上した高炉改修一時費用がなくなったことなどから、前期比468億円改善の173億円の利益

## 溶接

**805億円** (前期比 △2.1%)



建設機械ロボットシステム

- **溶接材料販売数量**：国内の建築鉄骨やエネルギー向け需要が回復傾向にある一方、韓国の造船向けの大幅な減少により、前期比減
- **溶接システム売上高**：建築鉄骨向け需要が堅調に推移するも、高水準であった前期比減
- **経常利益**：前期比19億円減益の49億円

## アルミ・銅

**3,495億円** (前期比 +8.1%)



自動車サスペンション用アルミ鍛造部品

- **アルミ圧延品販売数量**：飲料用缶材向け需要が前期並も、自動車向け需要の増加により、前期比増
- **銅圧延品販売数量**：前期並  
[銅板条] 自動車用端子や半導体向け需要増  
[銅管] タイ生産拠点での設備トラブルにより販売数量減
- **経常利益**：地金価格上昇により在庫評価影響が改善も、当社グループでの製品の一部に対する不適切行為関連の影響やグループ会社の業績悪化により、前期並の118億円

## 機械

**1,613億円** (前期比 +7.0%)



大型混練造粒装置「LCM」

- **受注高**：中国の石油化学分野などの市場の回復基調などから、前期比17.9%増の1,511億円
- **当期末受注残高**：1,404億円
- **経常利益**：圧縮機の一部案件の採算性悪化などにより、前期比35億円減益の23億円

## 当期の概況

当社グループにおいては、鋼材の販売数量は、自動車向けの堅調な需要に支えられ、前期並となりました。アルミ圧延品の販売数量は、飲料用缶材向けの需要が前期並であったものの、自動車向けの需要が増加したことにより、前期を上回りました。銅圧延品の販売数量は、銅板条において自動車用端子や半導体向けの需要が増加したものの、銅管においてタイ生産拠点での設備トラブルにより販売数量が減少したことから、前期並となりました。油圧ショベルの販売台数は、国内および中国などで需要が増加したことから、前期を上回りました。

## 業績ハイライト (連結)

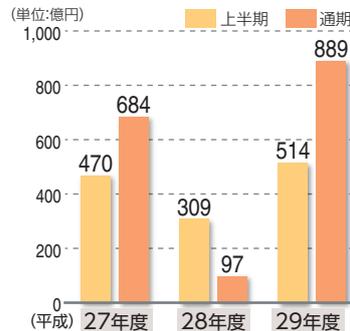
### 売上高

**18,811 億円**  
(前期比 +10.9%)



### 営業利益

**889 億円**  
(前期比 +812.0%)



## 事業別売上高 (平成29年度)

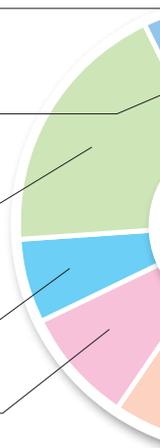
その他  
**688億円 (4%)**

電力  
**721億円 (4%)**

建設機械  
**3,645億円 (19%)**

エンジニアリング  
**1,228億円 (6%)**

機械  
**1,613億円 (8%)**



この結果、当期の売上高は前期比1,852億円増収の1兆8,811億円となり、営業利益は、前期に鉄鋼事業において高炉改修の一時費用を計上していたことおよび建設機械の中国事業において滞留債権等に係る引当金を計上していたことなどから、前期比791億円増益の889億円、経常損益は前期比902億円改善の711億円の利益となりました。特別損益は、当社グループにおける製品の一部に対する不適切行為に関連して、お客様等への補償費用などを計上したものの、投資有価証券売却益の計上により20億円の利益となり、親会社株主に帰属する当期純損益は前期比862億円改善の631億円の利益となりました。

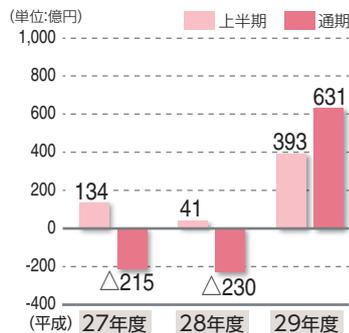
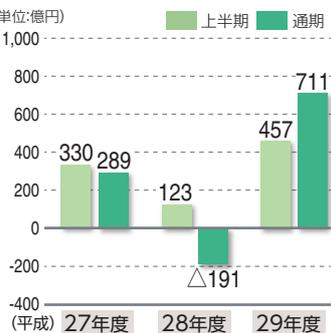
## 経常損益

**711 億円**  
(前期比 -)

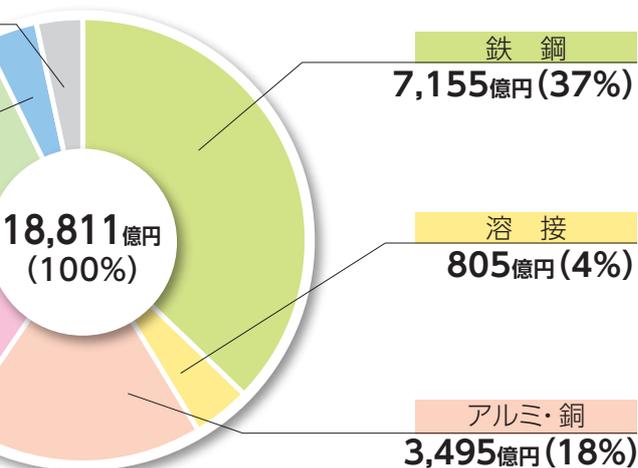


## 親会社株主に帰属する当期純損益

**631 億円**  
(前期比 -)



(注) 下記円グラフの各事業の売上高の合計から、各事業間の内部売上高等の消去額543億円を差し引いた金額が、連結売上高の合計額18,811億円となります。なお、各事業別の比率は、各事業の売上高の合計をもとに算出しております。



## エンジニアリング **1,228 億円** (前期比 +1.4%)



- **受注高**: 複数の大型案件の受注のあった前期に比べ減少し、前期比31.6%減の1,192億円
- **当期末受注残高**: 1,834億円
- **経常利益**: 既受注案件の順調な進捗などにより、前期比41億円増益の69億円

## 建設機械 **3,645 億円** (前期比 +17.4%)



- **油圧ショベル販売台数**: 前期比増  
[国内] 排ガス規制前の駆け込み需要により増加  
[海外] 中国でのインフラ投資により需要増
- **クローラークレーン**: 東南アジアを中心とした需要減などにより前期比減
- **経常損益**: 油圧ショベルの販売台数増加や中国での油圧ショベル事業の滞留債権等に係る引当金の計上影響がなくなったことなどにより、前期比533億円改善の219億円の利益

## 電力 **721 億円** (前期比 +2.2%)



- **販売電力量**: 定期検査日数の増加により、前期比減
- **電力単価**: 発電用石炭価格の市況上昇の影響を受け、前期を上回る
- **経常利益**: 神戸発電所1号機の新契約移行の影響や定期検査時の保全費増加などにより、前期比51億円減益の79億円

## その他 **688 億円** (前期比 △8.0%)



- **神鋼不動産**:  
[分譲事業] 堅調に推移  
[賃貸事業] 堅調に推移
- **コベルコ科研**:  
[試験研究事業] 不適切行為の影響により受注減
- **その他**: 連結子会社であった神鋼ケアライフ株式会社を、持分法適用関連会社に変更
- **その他の事業全体の経常利益**: 前期比21億円減益の54億円  
(注) 神鋼ケアライフ株式会社は、平成30年6月1日付で、スミリンケアライフ株式会社に商号変更いたしました。